

基本情報	
時間割コード / Course Code	040902
開講区分(開講学期) / Semester	集中
曜日・時間 / Day and Period	他
開講科目名 / Course Name (Japanese)	理系科学英語夏期海外研修(令和5、6年度入学者用)
開講科目名(英) / Course Name	Science and Society Seminar
教室 / Room	掲示により通知
ナンバリング / Course Numbering Code	04MATH2U103,04PHYS2U103,04CHEM2U103,04BISC2U103
授業形態 / Type of Class	実験科目, 実習科目
単位数 / Credits	2.0
年次 / Student Year	3,4年
担当教員 / Instructor	香門 悠里、浦川 理
メディア授業科目 / Course of Media Class	非該当

基本項目	
履修対象 / Eligibility	理学部の1~4年生(他学部の学生も参加を認めることがある)

詳細情報	
授業サブタイトル / Course Subtitle	-
開講言語 / Language of the Course	日本語・英語
学習方法 / Learning Methods	<p>聴講・視聴: 講義・教材・実演を視聴して学ぶ(例: 講義の対面受講、オンデマンド教材視聴)</p> <p>討論: 学生同士や教員との間で質疑応答や意見交換を行うことで学ぶ(例: ペア・グループディスカッション、オンラインでのチャット、論文個別指導)</p> <p>協同: ペアやグループで行う協同作業を通して学ぶ(例: グループによるポスター制作)</p> <p>調査: 本や論文から情報を収集したり、フィールドワークでデータを収集・分析して学ぶ(例: 先行研究整理、フィールドワーク)</p> <p>体験・実践: 体験・実践等の行動ならびにそれに対するフィードバックにより学ぶ(例: 問題演習、機器等を使う実験、学内外実習、スポーツ等の実技、課題解決型学習、インターンシップ)</p> <p>発表: 執筆、プレゼンテーション、作品制作等により学ぶ(例: レポート作成、プレゼンテーション、ポスター発表、作品制作、ポートフォリオ)</p>
授業の目的と概要 / Course Objectives	<p>目的:</p> <p>オーストラリアの大学(*)で開講される約5週間の理系科学英語研修に参加し、英語でのプレゼンテーション力やコミュニケーション力を向上させ、研究者やエンジニアに必要なグローバルな素養を身につけることである。</p> <p>概要:</p> <p>本科目の受講生は、オーストラリアの大学(*)で開講される約5週間の理系科学英語研修に参加する。主に、1) 英語の語学講義、2) 自然科学に関連するプレゼンテーション・ディスカッションの講義を受講する(**)。この他、現地の学生や他の国籍の学生との交流の機会もあるため、異文化理解も深める。現地での滞在先は一般家庭でのホームステイとする。帰国後、研修の成果を発表する。</p> <p>1) 英語の語学講義: 英語のスピーキングやディスカッションに重点を置いているため、学生は、実践的な英語力を身につけることができる。</p> <p>2) 自然科学に関連するプレゼンテーション・ディスカッションの講義: 訪問先の研究施設等へ訪問し、「自然科学に関連するトピックス」について小グループ等でディスカッションしてプレゼンテーション等を行い、現地の教員から評価を受ける。</p> <p>*留学先大学は、説明会の時に告知します</p> <p>**具体的な内容は、説明会および事前研修で詳細を説明します</p>
学習目標 / Learning Goals	<p>1 基本的な英語の語学力(読み・書き・リスニング・スピーキング)を身につけて、外国人等と英語</p>

		で日常会話および特定テーマに関するディスカッションができるようになる。														
	2	主に自然科学に関するテーマを英語で調査・整理し、論理的かつ説得力のあるプレゼンテーションを個人あるいはグループで作成し、その発表と質疑応答を英語でできるようになる。														
	3	研修前および研修中におけるグループワークなどを通じて、協働作業によるチームワークスキルを身につける。														
	4	研修先の人々との交流を通して異なる価値観や異文化への理解を深め、グローバルな視野を身につける。														
履修条件・受講条件 / Requirements, Prerequisites		90万円程度の自己負担が必要。(該当者には奨学金の受給あり。詳細は説明会にて告知します。その他、理学部ホームページの「理系科学英語夏期海外研修」を確認してください。) https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/international/overseas_training/ お問い合わせ先：理学研究科大学院係 理学部A棟111														
出欠席及び受講に関するルール / Attendance and Student Conduct Policy		原則として、以下の全てに参加し、課題を提出することを参加条件とする。 1) 現地研修出発前のオリエンテーション4回程度(研修者の学習進度によっては増減あり) 2) 事前英語研修1、2(他の授業の履修と重複する場合は応相談) 3) プレイスメントテスト 4) 危機管理オリエンテーション 5) 海外研修 参加者は全行程に同行するものとし、途中合流・離脱は認めない。 6) 帰国後報告会 7) 研修報告書類等作成 9) 留学前後の語学試験の受験とスコア提出 詳細は、募集要項を確認のこと														
授業計画 / Class Plan		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>題目:事前学修_海外研修出発前のオリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>[4時間(4回×1時間)を予定]</td> <td>渡航前に大阪大学において海外生活や英語で授業を受けるために最低限必要な予備知識、健康や安全管理、異文化コミュニケーション等について学ぶ。実施時期は、2026年6月～8月の昼休みを予定。(研修者の学習進度によっては増減あり) 担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:研修までにオーストラリアの文化や習慣について調べておく。各研修で学習した内容の復習、自主学習に励むこと。また、危機管理オリエンテーションは各自受講すること。</td> </tr> <tr> <td>[2時間(予定)]</td> <td>題目:事前学修_プレイスメントテスト 学生は、海外研修先の大学での英語の語学講義受講におけるクラス分けのためのプレイスメントテストを受験する必要がある。海外研修出発前のオリエンテーション等で詳細を知らせる。 担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:プレイスメントテストに向けて各自英語の勉強をしておくこと。詳しくは海外研修出発前のオリエンテーション等でお知らせします。</td> </tr> <tr> <td>[8時間(4回×2時間)の予定]</td> <td>題目:事前学修_事前英語研修1 ネイティブの講師によるEnglish Caféを受講し、留学生と英語でコミュニケーションをする練習をする。実施時期は2026年6月～7月の5-6限または昼休みの時間帯を予定。(他の授業の履修と重複する場合は応相談) 担当教員:香門悠里、委託英語講師ほか 授業時間外学習:各自、復習に励むこと。</td> </tr> <tr> <td>[6時間(2回×3時間)の予定]</td> <td>題目:事前学修_事前英語研修2 ネイティブの講師による海外生活に必要な実践的英語レッスンを受講する。実施時期は2026年8月(渡航直前)を予定。 担当教員:香門悠里、委託業者の英語講師ほか 授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと。</td> </tr> <tr> <td>約5週間</td> <td>題目:海外研修_海外研修先での英語研修 2026年8月～9月(約5週間) 英語の語学授業の受講、自然科学に関連するプレゼンテーション・ディスカッションの講義の受講、研究施設などへの訪問など [英語研修:80時間(5週×16時間)、自主学習:20時間(20日×1時間)(予定)] (注意)詳細は、説明会等にて告知します。参加学生のニーズや研修先との打ち合わせにより一部変更の可能性あり。参加者は全行程に同行するものとし、途中合流・離脱は認めない。 担当教員:研修先の教員 授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと</td> </tr> <tr> <td>[3時間]</td> <td>題目:事後学修_帰国後報告会 帰国後1週間以内実施します。研修先で学んだことについてプレゼンテーション等を行う。理学研究科の国際交流委員会の教員等から評価を受ける。</td> </tr> </table>		題目:事前学修_海外研修出発前のオリエンテーション	[4時間(4回×1時間)を予定]	渡航前に大阪大学において海外生活や英語で授業を受けるために最低限必要な予備知識、健康や安全管理、異文化コミュニケーション等について学ぶ。実施時期は、2026年6月～8月の昼休みを予定。(研修者の学習進度によっては増減あり) 担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:研修までにオーストラリアの文化や習慣について調べておく。各研修で学習した内容の復習、自主学習に励むこと。また、危機管理オリエンテーションは各自受講すること。	[2時間(予定)]	題目:事前学修_プレイスメントテスト 学生は、海外研修先の大学での英語の語学講義受講におけるクラス分けのためのプレイスメントテストを受験する必要がある。海外研修出発前のオリエンテーション等で詳細を知らせる。 担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:プレイスメントテストに向けて各自英語の勉強をしておくこと。詳しくは海外研修出発前のオリエンテーション等でお知らせします。	[8時間(4回×2時間)の予定]	題目:事前学修_事前英語研修1 ネイティブの講師によるEnglish Caféを受講し、留学生と英語でコミュニケーションをする練習をする。実施時期は2026年6月～7月の5-6限または昼休みの時間帯を予定。(他の授業の履修と重複する場合は応相談) 担当教員:香門悠里、委託英語講師ほか 授業時間外学習:各自、復習に励むこと。	[6時間(2回×3時間)の予定]	題目:事前学修_事前英語研修2 ネイティブの講師による海外生活に必要な実践的英語レッスンを受講する。実施時期は2026年8月(渡航直前)を予定。 担当教員:香門悠里、委託業者の英語講師ほか 授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと。	約5週間	題目:海外研修_海外研修先での英語研修 2026年8月～9月(約5週間) 英語の語学授業の受講、自然科学に関連するプレゼンテーション・ディスカッションの講義の受講、研究施設などへの訪問など [英語研修:80時間(5週×16時間)、自主学習:20時間(20日×1時間)(予定)] (注意)詳細は、説明会等にて告知します。参加学生のニーズや研修先との打ち合わせにより一部変更の可能性あり。参加者は全行程に同行するものとし、途中合流・離脱は認めない。 担当教員:研修先の教員 授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと	[3時間]	題目:事後学修_帰国後報告会 帰国後1週間以内実施します。研修先で学んだことについてプレゼンテーション等を行う。理学研究科の国際交流委員会の教員等から評価を受ける。
	題目:事前学修_海外研修出発前のオリエンテーション															
[4時間(4回×1時間)を予定]	渡航前に大阪大学において海外生活や英語で授業を受けるために最低限必要な予備知識、健康や安全管理、異文化コミュニケーション等について学ぶ。実施時期は、2026年6月～8月の昼休みを予定。(研修者の学習進度によっては増減あり) 担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:研修までにオーストラリアの文化や習慣について調べておく。各研修で学習した内容の復習、自主学習に励むこと。また、危機管理オリエンテーションは各自受講すること。															
[2時間(予定)]	題目:事前学修_プレイスメントテスト 学生は、海外研修先の大学での英語の語学講義受講におけるクラス分けのためのプレイスメントテストを受験する必要がある。海外研修出発前のオリエンテーション等で詳細を知らせる。 担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:プレイスメントテストに向けて各自英語の勉強をしておくこと。詳しくは海外研修出発前のオリエンテーション等でお知らせします。															
[8時間(4回×2時間)の予定]	題目:事前学修_事前英語研修1 ネイティブの講師によるEnglish Caféを受講し、留学生と英語でコミュニケーションをする練習をする。実施時期は2026年6月～7月の5-6限または昼休みの時間帯を予定。(他の授業の履修と重複する場合は応相談) 担当教員:香門悠里、委託英語講師ほか 授業時間外学習:各自、復習に励むこと。															
[6時間(2回×3時間)の予定]	題目:事前学修_事前英語研修2 ネイティブの講師による海外生活に必要な実践的英語レッスンを受講する。実施時期は2026年8月(渡航直前)を予定。 担当教員:香門悠里、委託業者の英語講師ほか 授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと。															
約5週間	題目:海外研修_海外研修先での英語研修 2026年8月～9月(約5週間) 英語の語学授業の受講、自然科学に関連するプレゼンテーション・ディスカッションの講義の受講、研究施設などへの訪問など [英語研修:80時間(5週×16時間)、自主学習:20時間(20日×1時間)(予定)] (注意)詳細は、説明会等にて告知します。参加学生のニーズや研修先との打ち合わせにより一部変更の可能性あり。参加者は全行程に同行するものとし、途中合流・離脱は認めない。 担当教員:研修先の教員 授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと															
[3時間]	題目:事後学修_帰国後報告会 帰国後1週間以内実施します。研修先で学んだことについてプレゼンテーション等を行う。理学研究科の国際交流委員会の教員等から評価を受ける。															

	担当教員:理学研究科の国際交流委員会の教員ほか
	授業時間外学習:帰国後報告会に向けての最終準備を各自あるいは各グループ等で行うこと。
[約1時間]	題目:事後学修_研修報告書類等作成
	帰国後1週間以内を目処に、報告書を作成し提出する。研修前・研修中に学んだこと、今後どのように活かしたいか、今後の展望などについて記載する。その他、アンケートにも回答する。
	担当教員:香門悠里ほか
	授業時間外学習:研修中、研修後に各自で実施する。
各自行う	題目:その他_語学試験の受験とスコア提出
	TOEIC、TOEFLまたはIELTSの受験 自己負担(理学部の学生は補助あり、申請必要) 海外研修の効果を確認するため帰国前後に同種の語学試験(推奨)を受験し、スコアを提出する。
	担当教員: 授業時間外学習:研修前後で各種語学試験を受験すること。
学修時間計154時間	題目:合計学修時間
	学修時間計154時間
	担当教員: 授業時間外学習:-
[4時間(4回×1時間)を予定]	題目:事前学修_海外研修出発前のオリエンテーション
	渡航前に大阪大学において海外生活や英語で授業を受けるために最低限必要な予備知識、健康や安全管理、異文化コミュニケーション等について学ぶ。実施時期は、2026年6月～8月の昼休みを予定。(研修者の学習進度によっては増減あり)
	担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:研修までにオーストラリアの文化や習慣について調べておく。各研修で学習した内容の復習、自主学習に励むこと。また、危機管理オリエンテーションは各自受講すること。
[2時間(予定)]	題目:事前学修_プレイズメントテスト
	学生は、海外研修先の大学での英語の語学講義受講におけるクラス分けのためのプレイズメントテストを受験する必要がある。海外研修出発前のオリエンテーション等で詳細を知らせる。
	担当教員:香門悠里ほか 授業時間外学習:プレイズメントテストに向けて各自英語の勉強をしておくこと。詳しくは海外研修出発前のオリエンテーション等でお知らせします。
[8時間(4回×2時間)の予定]	題目:事前学修_事前英語研修1
	ネイティブの講師によるEnglish Caféを受講し、留学生と英語でコミュニケーションをする練習をする。実施時期は2026年6月～7月の5-6限または昼休みの時間帯を予定。(他の授業の履修と重複する場合は応相談)
	担当教員:香門悠里、委託英語講師ほか 授業時間外学習:各自、復習に励むこと。
[6時間(2回×3時間)の予定]	題目:事前学修_事前英語研修2
	ネイティブの講師による海外生活に必要な実践的英語レッスンを受講する。実施時期は2026年8月(渡航直前)を予定。
	担当教員:香門悠里、委託業者の英語講師ほか 授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと。
約5週間	題目:海外研修_海外研修先での英語研修 2026年8月～9月(約5週間)
	英語の語学授業の受講、自然科学に関連するプレゼンテーション・ディスカッションの講義の受講、研究施設などへの訪問など [英語研修:80時間(5週×16時間)、自主学習:20時間(20日×1時間)(予定)] (注意)詳細は、説明会等にて告知します。参加学生のニーズや研修先との打ち合わせにより一部変更の可能性あり。参加者は全行程に同行するものとし、途中合流・離脱は認めない。
	担当教員:研修先の教員
	授業時間外学習:各自、予習と復習に励むこと
[3時間]	題目:事後学修_帰国後報告会
	帰国後1週間以内に実施します。研修先で学んだことについてプレゼンテーション等を行う。理学研究科の国際交流委員会の教員等から評価を受ける。
	担当教員:理学研究科の国際交流委員会の教員ほか 授業時間外学習:帰国後報告会に向けての最終準備を各自あるいは各グループ等で行うこと。
[約1時間]	題目:事後学修_研修報告書類等作成
	帰国後1週間以内を目処に、報告書を作成し提出する。研修前・研修中に学んだこと、今後どのよ

		うに活かしたいか、今後の展望などについて記載する。その他、アンケートにも回答する。				
		担当教員:香門悠里ほか				
		授業時間外学習:研修中、研修後に各自で実施する。				
	各自行う	題目:その他_語学試験の受験とスコア提出				
		TOEIC、TOEFLまたはIELTSの受験 自己負担(理学部の学生は補助あり、申請必要) 海外研修の効果を確認するため帰国前後に同種の語学試験(推奨)を受験し、スコアを提出する。				
		担当教員:				
		授業時間外学習:研修前後で各種語学試験を受験すること。				
教科書・指定教材 / Textbooks	適宜配布					
参考図書・参考教材 / Reference	なし					
成績評価 / Grading Policy	評価方法 / Evaluation Methods	研修先の教員による評価	帰国後報告会	学習への参加度	レポート・論文	
	学習目標1	○	○	○	○	
	学習目標2	○	○	○	○	
	学習目標3	○	○	○	○	
	学習目標4	○	○	○	○	
	評価割合 / Allocation of Marks	40%	40%	10%	10%	
成績評価に関する補足情報 / Additional Information on Grading	<p>研修先の教員による評価について：成績評価は、主に各種講義への参加状況などを総合して、現地の教員が定めた達成目標に沿って現地の教員が行う。</p> <p>帰国後報告会について：帰国後に大阪大学にて実施する帰国後報告会にて、研修を通して学んだことについてプレゼンテーション等を行う。理学研究科の国際交流委員等が審査員となって発表内容について評価する。</p> <p>学習への参加度について：主な評価項目は、研修前のオリエンテーション、English Café、事前英語研修、ブレースメントテストへの参加度とする。</p> <p>レポート・論文について：研修後の報告書（研修前、研修中で学んだこと、今後の目標など）や語学試験スコアの提出が含まれる（ただし、語学試験のスコアの内容は評価には含まない）</p> <p>その他の捕捉事項：最終成績が60%に満たなかった学生および帰国後語学試験未受験またはスコアの提出がない学生については、原則修了単位を付与しない。なお、理学部生以外の学生は単位認定について所属学部の教務係に事前に相談すること。</p>					
合理的配慮 / Reasonable Accommodation	<p>・本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）に起因して合理的配慮を要する場合は、所属学部 / 研究科の障がい学生支援担当窓口（教務係 / 学務係 / 学生支援係等）やキャンパスライフ健康支援・相談センターアクセシビリティ支援室に相談してください。</p> <p>・詳細はこちらを参照してください。</p> <p>キャンパスライフ健康支援・相談センターアクセシビリティ支援室</p> <p>Website : https://acs.hacc.osaka-u.ac.jp Tel : 06-6850-6107 E-mail : campuslifekenkou-ac@office.osaka-u.ac.jp</p>					
特記事項 / Special Note	<p>2026年4月中旬頃に説明会を実施します。日程は、理学部ホームページの「理系科学英語夏期海外研修」の「2026年度の情報」よりご確認ください。受講を考えている人はいずれかの説明会に出席してください。説明会に関する詳細を連絡するので事前に参加登録してください（各日程の2日前まで）。説明会への参加登録は、以下のホームページ中の「2026年度の情報」にリンクがあるので、各自行ってください。</p> <p>「理系科学英語夏期海外研修」のホームページURL https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/international/overseas_training/</p>					
オフィスアワー / Office Hours	<p>平日10:00～17:00 理学部A棟115(授業内容について) 理学部A棟111(事務手続きについて)</p>					
実務経験のある教員による授業科目 / Course Conducted by Instructors with Practical Experience	海外留学の経験のある教員が、その経験を踏まえて、必要に応じて実例を提示しながら授業を行う。					

授業担当教員

1	教員氏名 / Instructor	香門 悠里
---	-------------------	-------

	Name	
	居室 / Office	A115
	内線 / Extension	豊中8169
	e-mail / E-mail	kamon@chem.sci.osaka-u.ac.jp
2	教員氏名 / Instructor Name	香門 悠里
	居室 / Office	A115
	内線 / Extension	豊中8169
	e-mail / E-mail	kamon@chem.sci.osaka-u.ac.jp
3	教員氏名 / Instructor Name	香門 悠里
	居室 / Office	A115
	内線 / Extension	豊中8169
	e-mail / E-mail	kamon@chem.sci.osaka-u.ac.jp